

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1173700236		
法人名	株式会社ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	行田ケアセンターそよ風		
所在地	〒361-0076 埼玉県行田市天満 8-29		
自己評価作成日	令和5年3月3日	評価結果市町村受理日	令和5年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ禍の為、色々な制限があり、思うようなことが実施出来なかった。センター内で楽しんで頂くレクリエーションをはじめ、作業レクによって作る楽しみを味わって頂くよう努めている。他に、季節の和菓子を頼んで、ゆったりとした時間を過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・「その人らしい暮らし」、「自立支援」、「室内レクリエーション」を柱に、好きな絵筆をふるったり、居室で一人のんびり過ごすなど、利用者ひとり一人の思いと生活リズムを大切に、明るく穏やかに過ごして頂くよう、チームケアに取り組まれている。
 ・運営推進会議は、コロナ禍の中、会議開催に替えて、書面にて報告をし、事業所の取り組みについての評価や意見を頂き、運営やサービス向上に活かすと共に地域に開かれた事業所として質の確保を図られている。
 ・目標達成計画の達成状況については、定期訓練では訓練未経験職員を中心に、火災、地震、風水害の発生を想定し、避難誘導訓練に取り組まれるほか、食料・器材などの備蓄品やライフライン寸断時の対策などに取り組まれていることから、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	利用者様と地域との関わりを持つことはコロナ禍もあって実践出来ていないが、職員が理念の共有をして行けるような環境を作っている。	「その人らしい暮らし」、「自立支援」、「室内レクリエーション」を柱に、利用者ひとり一人の思いと生活リズムを大切に、明るく健やかに過ごして頂くよう、チームケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で散歩・ボランティアの交流が無く、地区の催し(祭)時への参加も出来ていない。	現状、地域との関わりは制限されているが、ボランティアとの交流や地域の催事に参加するほか、地域資源の活用など、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう基盤づくりに取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議も書面開催が多いが、地域包括・市役所・民生委員・町内会長にも参加して頂くようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議を2ヶ月に1度の書面・家族へは手紙や電話にて意見・要望を聞き記録し、会議録にて公開している。	運営推進会議については。現在は書面での報告がなされ、地域包括支援センターほか会議構成メンバーに送付し、情報の共有を図られると共に、意見・アドバイスをいただき、事業所運営やサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か利用者様のことで悩んだり保険上の事で不明な点は、担当者へ連絡し、連絡・相談・報告をしている。	報告・連絡・相談時などでコミュニケーションを図られるほか、困難事例の受け入れや感染症対策の情報提供など、良好な連携関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料を準備し勉強会をはじめ、日頃からのケア・介助に迷いが出たりすると話し合い、身体拘束を未然に防ぐようにしている。	身体拘束適正化委員会が定期的に行われている。その機会に拘束に関する学びの時間をもち、身体拘束の内容とその弊害を確認、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアを実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議での勉強会・職員同士で対応がおかしいと思ったら、声掛けし合えるような環境作りを意識している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を使用する方が居ない為、言葉程度でしかない。多少の知識は必要だと思ふ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に、ゆっくりと説明を行い、不明・不確かな点があれば、すぐセンター長に確認をし、回答に努め、契約前に不安を与えないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話・面接時に「何か気になる事はないか」と声をかけ、何か問いがあった際には誠意を持ち答え、サービスに繋げている。	利用者とは日常の関わりの中で話を聴き取り、適宜対応されている。家族とは面会時や定期連絡の際に意見・要望を聞き取られている。その意見や要望は職員間で話し合い、サービスや運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から利用者様の事で、声をかけ意見を聞きケアプラン変更・作成時に反映をしている。	定例会議のほか、日常業務の中でも話し易い職場環境が作られ、意見・提案の聞き取りをされ、レクリエーション企画や個別ケア対策など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務中の職員の様子を見ながらコミュニケーションを図り、悩みや困り事が無いか聞くよう心がけ、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仕事を振り分け、苦手な分野でも担当してもらい、克服に繋げる。担当者と引継ぎをしながらやってもらうようにし、スキルアップが出来るように研修があれば参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の場を作れていないが、市内のGHと意見交換の場を何らかの形で作り、情報交換をし、サービスの向上に努めたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛け、必要に応じ、側に付き添うようにし、何か違和感を感じられた時は、職員同士で話し、家族や主治医と相談し、色々な方法を試すことで原因の究明をし、取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話・来所した際、声をかけ、何か心配・困り事が無いかなど、要望は無いかを伺いつつ、本人様の情報も伝え関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHに入居を迷われている様子・言葉が見られた際は、提案としてDS・SSの利用もあること、いろいろな案と一緒に考える事を伝え、安心して頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何気ない会話を大切に、声をかけ覚えていくことで、信頼してもらえるよう寄り添うことを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様だけの事ではなく、ご家族様の事にも気持ちも傾けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響・本人様の状況変化に伴い、関係性の維持が難しくなっているが、施設内でも季節を感じてもらおう、季節の飾りの作成をしている。	現在はコロナ禍の中、自粛をされているが、友人から自宅に届いた手紙や写真を家族が持ってきてくださり、話に花を弾まされているほか、初詣や四季折々のお花見ドライブなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	症状の進行変化に合わせて、会話が出来る・側にいる事で安心してもらえるような席作りを心掛けている。人と馴染むことが出来ない利用者様には、みんなの動きが見えるような席で対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても近くまで来た時や思い出話がしたくなったら、いつでもご連絡をと伝え、又、介護だけではなく、何か心配事があれば連絡を頂くよう伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話をすること・側にいて表情をみることで、何か意向・要望をくみ取る努力をし、困難な時はFaにも声をかけながら本人様に寄り添う。	利用者の話を傾聴し、仕草や表情を見逃さないように努められている。職員は利用者のできることを見極め、役割を継続して行っていただく中で、笑顔が見られるように支援をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活の様子を家族・担当ケアマネ等から情報を聞き、時に相談しながらより良いサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お好きなように1日を過ごしてもらうことを大事にし、出来る・やれることは進んでやって頂き、出来る・やれるを継続できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護期限が近付くと、職員に声をかけ問題点の確認をし、小さなことでも見落とすことの無いように情報共有をしている。計画書にも反映するよう努める。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、関係する職員の意見やアイデアを活かし、その人らしさを大切に、きめ細かな介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送り時をはじめ、日々の介護の中での様子を職員同士共有し、計画に沿う支援・援助を実施し、状況変化の記録をすることで、計画書の見直し・評価に生かす。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化やおかしいなと思うことは共有し、対応の見直し・方法を1つとせず、いろいろな方向で対応するようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して生活していけるよう、自治会長・民生委員・市役所等へ情報の公開・意見交換をする機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	こちらでの生活・様子を受診時には伝え、その他の日でも不安な時、事があると連絡し、指示を仰ぎ対応後の様子報告をしている。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本とし、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なえるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的なBP測定を行い、体調の変化・表情・食事水分摂取量の確認、様子に変化が見られた時は、NSの協力の元、適切な医療が受けられるよう支援する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員をはじめ、NSと連絡を取り、戻って来られる場所がある事を病院・家族へ伝え、安心して頂く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていないが、家族様が「住み慣れたそよ風さんで」と望まれた時は、家族様の気持ちに寄り添うように最期まで看させて頂く。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思の確認を進めながら、医師・看護師と連携のもと、重度化や終末期支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応こそ初期対応を冷静に行えるよう、日頃何事にも意識を持つよう声をかけ、焦らないと伝える。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会社・GHで避難・夜間想定訓練を行い、自分がどう動くか・どうすれば良いかを身に付けられるよう努め、声をかけていく。	定期訓練では訓練未経験職員を中心に、火災、地震、風水害の発生を想定し、避難誘導訓練に取り組まれるほか、食料・器材などの備蓄品やライフライン寸断時の対策など、体制整備に努められている。	災害対策は十分取り組まれています。高齢者を預かる事業所として、訓練を重ねて課題を見つけ解決するなど、組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ、耳元でのトイレの声掛けをはじめ、他者に見られないような配慮をしている。自分がされて嫌な事はしないと声掛けをする。	トイレ誘導時には耳元で小さく声がけをされたり、着替えの際にも他の利用者に見られぬよう配慮をされるなど、利用者の人格を尊重した対応、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がとられている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	緊張ではなく、常にリラックスして生活が送れるような声掛け・対応・環境を作るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合になることもあるが、1日1日が大切であること意識・安心して生活が送れるよう家族と連携を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から着ている服・好みの服が着用出来るように、入浴のセットをしたり、いつもと違う服が着られるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作業がコロナ禍で出来ず、食べることが楽しみなものであるが、目で見て楽しんで頂くように工夫をし、合同行事と一緒に出来なくても、職員が盛り上げ楽しくして頂く。	日常の食事に加えて、催事や特別料理の日にはお寿司や海鮮丼などが提供されるほか、上生菓子やマクドナルドのハンバーガーを楽しまれるなど、食事の楽しみを大切に支援が行なわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	苦手な物でも少量の提供をし、食べて頂く様に促す。最初から食べない・残すではなく、少量でも味わって頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声をかけ促しをし、自分でやって頂き、介助が必要な場合は一部介助・声掛けをして実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立だから大丈夫と過信せず、下衣の状況の確認を心掛けている。リハパン・パットを失禁してからの使うではなく、様子を見、声を掛けながら状況の確認をする。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行ないトイレでの排泄など、自立に向けた支援をされている。出来るだけオムツ類は使用せず、布パンツを基本とし、定時誘導で失禁防止を図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤服用の相談をはじめ、便秘日数、又、排便の形状等を詳しく説明し、必要に応じ指示を仰ぎ、結果報告をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴でリラックスして頂けるよう、大人数ではなく、職員1人利用者様2人位で入浴の実施。時には1対1で会話をしながら、ゆったりと入浴してもらう。	入浴時には健康観察や入居者といろいろな話をしたり、浴槽に入れない利用者には足元や体にタオルをかけ、シャワー浴での対応も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度・季節に合った寝具を使用し、個々で寝る環境に合わせるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬担当者を1人と決め(場合によっては2人)、配薬にも気をつけている。薬に変化があった時は、口答・申し送りノートを使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活自立を目指し、役割の提供・楽しみごとを一緒に探しながら、気分転換を図る支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援が実施出来ない。本来なら市内の催事に参加したい。車内からでもいいので、景色・季節を感じる支援をしたい。	最近では自粛されているが、事業所前の公園での散歩や外気浴を楽しまれているほか、地域の祭りや季節の花見、ドライブなど、利用者の希望を大切に支援に取り組まれている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、現金管理をされている方は居ませんが、今後いらっしゃれば、所持・使える支援をしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方は居るが、Fa側が拒否されている為、本人様と家族様が電話を通話せるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所については、誰でもいつでも使用することが出来るように、臭いにも配慮し、消臭・消毒を行う。	リビングダイニングの設えで、明るくゆったりしたスペースとなっている。また、雛祭りや季節の花の貼り絵が飾られ、利用者が季節を感じながら、気分良く過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー・椅子の位置を時々変え、どこでも安心出来るような環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い込まれた物の持ち込みをされ、ご本人の落ち着いた環境を作り、家族様にも相談している。	馴染みの寝具やソファ、テレビが持ち込まれ、利用者が気分良くゆっくり過ごされるよう工夫をされている。また、共用スペースを含め、毎日清掃、換気や消毒を行うなど、清潔維持と感染症対策に取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の行動制限をすることなく、安全確保をしながら、生活を送れるように支援している。		

(別紙4(2))

事業所名: 行田ケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日: 令和 5年 5月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	戸外の行きたい所へ出かける。(ほとんどない)	近くの店へ利用者と職員でおやつを買いに行く。	少人数ずつ歩いて季節を感じながら、買物に行く。	2ヶ月
2	35	災害対策。	職員が訓練等を通し、自分の役割、その時の判断をする。	新入職員も入り、夜間災害時にどう行動するか等を訓練を通して行ってみる。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。